

第十二号

2012年4月1日発行

JABLAS NEWS

目次

2012年度の抱負	1
JAB 試験所協議会 会長 井須 雄一郎	
アンケート結果報告	2
会員の声	
「私たちの ISO/IEC 17025」	8
株式会社シーズ 信頼性試験センター サービス事業部 信頼性試験センター 大塚 奈保美	
「競走馬のドーピング検査と ISO/IEC 17025 認定取得」	11
公益財団法人 競走馬理化学研究所 検査部長 須田 功	
JABLAS 校正専門部会の発足にあたって	15
活動報告	15
今後の予定	17
事務局だより	19

2012 年度の抱負

JAB 試験所協議会 会長 井須 雄一郎

例年より遅いとはいえ、各地の桜の便りとともに、新しい年度に入りました。

JABLAS は会員各位のご理解と絶大なるご支援のお蔭で、無事活動 4 年目を迎えることができました。

昨年度は、従来から継続実施している専門部会・セミナー・相談コーナーに加えて、試験所見学会や試験所経営に関する勉強会、外部団体との共同アンケート調査等、新しい活動分野が広がってきました。また、校正専門部会の立ち上げの準備や審査員会員の活動を軌道に乗せるための JABLAS 審査員クラブをスタートさせました。

先般、今後の JABLAS 活動の方向性について、会員各位からご意見をお伺いするためのアンケート調査を実施させていただきました。ご協力頂いた会員の皆様には、本紙面をお借りして篤くお礼申し上げます。

このアンケート調査結果については、2 ページ以降に掲載致しておりますが、多くの大変貴重なご意見を頂きました。現在、これらを加味し、JABLAS 活動理念の実現に向け 2012 年度の活動計画を策定中です。詳細は 5 月 16 日に開催予定の総会でご提案させていただきます。

会員数は、2012 年 3 月 31 日現在で、機関 107 件、個人 91 件、合計 198 件となっておりますが、1 年前に比べると、機関会員は 7 件増、個人会員は 11 件減で、合計では 4 件減となっております。

日本の試験所、校正機関、臨床検査室、検査機関の一層のレベルアップと、試験所認定制度が任意分野にとどまらず、強制分野でも広く活用されるようにするためにも、JABLAS の活動をより大きな力にする必要があります。

このためには、会員数の大幅な拡大が必須であり、事務局としても、会員数を増やすための活動を、より強力に展開していく所存ですが、会員の皆様におかれましては、新規会員候補の紹介等、絶大なるご協力をお願い申し上げます。

末尾になりましたが、本年度も JABLAS への変わらぬご理解とご支援を賜ります様お願い申し上げます。

以上

アンケート結果報告

本年1月に、JABLAS の活動及び JABLAS NEWS に関するアンケートを会員の皆様
 にお願ひ致しました。ご多忙の中ご協力頂きまして大変有難うございました。

回収数は 42、回収率としては約 20%とやや低めでしたが、貴重なご意見として、今後の
 活動に反映させていただきます。

1. JABLAS の活動に関するアンケート

設問 1. 専門部会は貴機関の活動に役立っていますか？

	機関	個人	合計	回答率
5.役に立っている	4	2	6	14%
4	12	2	14	33%
3.どちらでもない	15	2	17	40%
2.	2	0	2	5%
1.役に立っていない	1	2	3	7%
無回答	0	0	0	0%
合計	34	8	42	100%

(主な意見)

- ・見学会に参加して、他の機関との意見交換ができて良かった。
- ・試験所間のコミュニケーションの場になっている。
- ・自社の専門に相当する部会がないため、参加していない。
- ・参加していないので具体的な評価はできないが、JABLAS NEWS やウェブサイト
 等で大まかな活動は把握している。

(評価)

5と4の合計で約50%の方が専門部会は会員の役に立っていると回答頂いたが、ど
 ちらでもないと回答された40%の会員の声を良くお聞きし、解決策を検討したい。

設問 2. 専門部会にもしご参加して頂けるとしたら、どの部会を希望されますか？

(過去にご参加頂いた方にも改めてお伺いします。複数可)

	機関	個人	合計
1 化学専門部会	17	3	20
2 機械・物理専門部会	10	1	11
3.臨床検査専門部会	3	3	6
4.校正専門部会	4	0	4
5.参加しない	6	2	8
無回答	0	0	0
合計	40	9	49

(いずれにも参加しないと回答された方の主な意見)

- ・遠方なので参加するのが難しい。

・電気・EMC・校正専門部会を希望。

(評価)

校正専門部会は2012年度に発足させる予定。電気・EMCについては、関係者のご意見をお聞きしながら立ち上げを検討したい。

設問3. 試験所見学会の実施について

	機関	個人	合計	回答率
5.関心がある	18	3	21	50%
4	11	2	13	31%
3.どちらでもない	3	2	5	12%
2.	0	0	0	0%
1.関心はない	2	0	2	5%
無回答	0	1	1	2%
合計	34	8	42	100%

(主な意見)

- ・認定試験所の運用や活動状況を知る機会が少ないので、見学会は大変有意義だと思う。
- ・分析装置のレイアウト、ラボの雰囲気、記録を含めた文書管理、社員教育の実施体制等に興味がある。
- ・他社の試験環境を実際に見学することができて良かった。
- ・機会があれば是非参加したい。
- ・関心はあるが、同業他社の方々に自社の設備などを見て頂くことには抵抗がある。

(評価)

試験所見学会は大変好評をいただいている。今後も試験所様のご協力を得て、引き続き実施していきたい。

設問4. 貴機関ではJABLASの公開セミナーを受講していますか？

	機関	個人	合計	回答率
5.受講している	10	4	14	33%
4	3	0	3	7%
3.時々受講している	14	3	17	40%
2.	0	0	0	0%
1.受講していない	7	0	7	17%
無回答	0	1	1	2%
合計	34	8	42	100%

(主な意見)

- ・東京開催が多いため、参加しにくい。
- ・関係ある内容が少なかった。
- ・JABLAS以外のセミナーに参加している。(受講料無料)

- ・ 審査員として研修の一環として時々参加している。

(評価)

80%の方々が JABLAS 主催の公開セミナーに参加されていることが分かった。
会員サービスの重要な活動として、今後とも内容、開催頻度、開催場所等ご要望にこたえるべく努力していきたい。

設問 5 . ご希望のセミナー・テーマがございましたらお書きください。

- ・ MRA 情報、海外認定情報
- ・ 試験所要員育成、評価方法に関するテーマ
- ・ 不確かさ推定方法 (実例を含む)
- ・ GUM の易しい解説
- ・ 他機関の内部監査の具体的事例に関するもの
- ・ 食品検査関係
- ・ 審査の仕方、審査の受け方
- ・ 試験サンプルの受け入れから分析、報告書作成までの一連のシステム化、効率化の事例に関するもの
- ・ ISO/IEC 17025 の技術面について、“ どのような管理を行えばよいか ” や “ 何を注意すればよいか ” 等具体的に

(評価)

既に実施されているものもあるが、ご要望が具体的かつ多岐に亘っているので、個別対応実施を含めて、可能かどうか今後検討したい。

2 . JABLAS NEWS に関するアンケート

設問 1 . 毎回お読みですか？

	機関	個人	合計	回答率
5.毎回読んでいる	2 5	9	3 4	8 1 %
4	3	0	3	7 %
3.時々読んでいる	5	0	5	1 2 %
2.	0	0	0	0 %
1.読んでいない	0	0	0	0 %
無回答	0	0	0	0 %
合 計	3 3	9	4 2	1 0 0 %

(評価)

上の回答結果を見る限り良く読まれていると思われるが、今回、回答率が比較的
低かったことを勘案すると、少し割り引いて評価する必要がある。

設問 2 . 全体的内容について

	機関	個人	合計	回答率
5.とても面白い	1	0	1	2 %
4	14	7	21	50 %
3.どちらでもない	17	2	19	45 %
2.	1	0	1	2 %
1.面白くない	0	0	0	0 %
無回答	0	0	0	0 %
合計	33	9	42	100 %

(評価)

全体としてはやや面白いとの評価を頂いているが、どちらでもないが45%もあることから、いかに魅力ある内容とするかが課題である。

設問 3 . 読みやすさについて (文字の大きさも含む)

	機関	個人	合計	回答率
5.とても読みやすい	8	4	12	29 %
4	17	5	22	52 %
3.どちらでもない	7	0	7	17 %
2.	1	0	1	2 %
1.読みにくい	0	0	0	0 %
無回答	0	0	0	0 %
合計	33	9	42	100 %

(評価)

読みやすさについては、ほぼ満足を頂いていると考える。

設問 4 . サイズについて

	機関	個人	合計	回答率
5.大きい	0	0	0	0 %
4	4	1	5	12 %
3.どちらでもない	6	1	7	17 %
2.	5		5	12 %
1.ちょうどよい	18	7	25	60 %
無回答	0	0	0	0 %
合計	33	9	42	100 %

(評価)

サイズについても丁度良いとの評価を得ている。

設問5 「会員の声」について

	機関	個人	合計	回答率
5.もっと多く欲しい	1	1	2	5%
4	4	1	5	12%
3.普通	26	6	32	76%
2.	1	0	1	2%
1.少なくてよい	1	1	2	5%
無回答	0	0	0	0%
合計	33	9	42	100%

(評価)

現状維持で良いという結果であるが、多くしてもらいたいという声もあるので、回数増も検討する。

設問6 「会員の声」の内容について

	機関	個人	合計	回答率
5.役に立っている	3	1	4	10%
4	18	5	23	55%
3.どちらでもない	12	3	15	35%
2.	0	0	0	0%
1.役に立っていない	0	0	0	0%
無回答	0	0	0	0%
合計	33	9	42	100%

(評価)

やや役立っているとの評価を頂いたが、あまり肩苦しいものより、興味のわく内容となるよう心掛けたい。

設問7 年間の発行回数について

	機関	個人	合計	回答率
5.もっと多く希望	0	0	0	0%
4	0	0	0	0%
3.適当	32	9	41	98%
2.	1	0	1	2%
1.多すぎる	0	0	0	0%
無回答	0	0	0	0%
合計	33	9	42	100%

(評価)

発行回数は現状で良いとの評価をいただいた。

設問 8 . 編集会議 (三カ月に一回) に参加したい

	機関	個人	合計	回答率
5.希望	0	0	0	0 %
4	0	0	0	0 %
3 どちらでもない	5	2	2	5 %
2.	2	0	2	5 %
1.希望しない	26	7	33	79 %
無回答	0	0	0	0 %
合計	33	9	42	100 %

(評価)

大半の会員は編集会議への参加は希望しないという結果であった。但し、機関誌は会員との重要なコミュニケーションツールであるので、今後とも忌憚のないご意見、要望をお聞かせい頂きたい。

設問 9 . 関係者に回覧していますか？

	機関	個人	合計	回答率
5.回している	24	1	25	60 %
4	2	2	4	10 %
3.時々回している	6	1	7	17 %
2.	0	0	0	0 %
1.回していない	1	4	5	12 %
無回答	0	1	1	2 %
合計	33	9	42	100 %

(評価)

大半が回覧して頂いている。回覧先からのコメントも合わせていただけるとありがたい。

設問 10 . ご希望の掲載内容があればご記入ください。

- ・不確かさの考え方
- ・ISO/IEC 17065 など新規規格の紹介説明
- ・記述方式が2段であればもっと読み易いと思う。
- ・ILAC、APLAC のポリシーや最新のニュースを記載すると、もっと多くの方々に読んでいただけたらと思う。

以上

会員の声 (その1)

「私たちの ISO/IEC 17025」

株式会社シーズ サービス事業部
信頼性試験センター 大塚 奈保美

会社紹介

株式会社シーズは、栃木県壬生町のおもちゃのまち団地に位置し、バンダイナムコグループの一員です。主に玩具で培ったノウハウを生かし、玩具・他OEM製品の企画・開発・生産・アフターサービスを担当しております。



会社の事業内容

玩具・玩菓・電子ゲーム・文具・LED オリジナル商品

その他 OEM ビジネス

精密成形 (インジェクション成形)

精密金型

品質保証 (バンダイ製品の信頼試験、検査・信頼試験請負、解析・故障分析・材料分析)

相談センター業務 (修理・配送業務)

ISO/IEC 17025 取得

シーズ信頼試験はバンダイ製品を主に 15 年間行ってきましたが、玩具の 9 割は中国生産となってきている現在は、信頼試験も中国で行うようになってきました。そこで、シーズとして生き延びていく為に何が出来るかを検討した結果、「信頼試験の品質、信頼性の向上」にたどり着き、ISO/IEC 17025 の認定を受けることに挑戦しました。

2007年に財団法人日本適合性認定協会（JAB）により、第三者機関として試験所認定され、株式会社シーズ サービス事業部 品質保証チーム内に信頼性試験センターを配置し、7名で運営しております。

「お客さまに信頼性が高い試験、分析、解析を提供し、新しい価値創造に貢献する会社を創る」を品質方針に掲げ日々の作業を行っております。

認定範囲は M21 電気試験、M21.5 環境試験、21.5.1 定常温度試験、M21.5.1.1 低温（耐寒性）試験、M21.5.1.2 高温（耐熱性）試験、M21.5.3 高温高湿試験、M21.5.3.3 温湿度組合せサイクル試験です。

ISO/IEC 17025 のメリット

今まで ISO 9001 の考え方で試験を行ってきましたが、ISO/IEC 17025 の認定を受けたことにより「環境温度の管理」「不確かさ」を学び実践することができました。そして、試験所認定していることでグループ内はもとより、初めての依頼者からも信頼がつかまりました。

また、他社の試験所と交流することにより、見学・意見交換をすることで、刺激を受け、向上心をもって試験をすることができています。

ISO/IEC 17025 のデメリット

ISO/IEC 17025 の認定を受け4年経過しておりますが、認定を取得したことによって試験は数件ございましたが、維持費用と受託費用（利益）が伴っていません。

これから

私たちは会社組織の一員です。ISO/IEC 17025 のしくみは試験所としてはとても良いと思いますが、信頼性試験センターと言ってもサービス事業部の一部であって、利益を無視するわけにはいきません。だからと言って、このまま止めるわけではなく5年後、10年後まで考え、これからどのような目標でどのように計画を立てるかが重要になっています。

信頼性試験センターが「お客様に必要とされる試験所」となる為にも、ISO/IEC 17025 に取り組んで良かったと思える試験所を目指して、レベルアップして行きたいと思います。

JABLAS への期待

ISO/IEC 17025 の認知度が低いので、もっと広めて欲しいです。そして、認定している試験所を活用できるPRをして頂きたいです。また、ISO/IEC 17025 の認定範囲の拡大等のアドバイスを頂けたら幸いです。

以上



株式会社 シーズ サービス事業部 品質保証チームメンバー

会員の声（その2）

「競走馬のドーピング検査と ISO/IEC 17025 認定取得」



公益財団法人 競走馬理化学研究所
検査部長 須田 功

1．はじめに

今年はオリンピックイヤーということで、ドーピング（競技成績向上を目的とした禁止薬物使用）に関するニュースが例年よりも増えるかも知れません。つい最近も、自転車競技やレスリングの選手による禁止薬物使用が、ロンドンオリンピック出場との絡みで大きく取り上げられていました。このように、人のスポーツにおいてドーピングが厳しく規制されていることは良く知られていますが、競馬の世界でも、競走馬への禁止薬物の使用が人のスポーツと同様に、見方によってはそれ以上に、厳しく規制されていることはあまり知られていないかも知れません。歴史的に見ても、実はドーピング規制に関わる検査は競馬の方が古く、本格的なドーピング検査がスポーツ選手では1968年に初めて行われたのに対して、競走馬では1930年頃に既に検査が開始されています。

弊所は、競馬の公正確保を目的として、競走馬の薬物検査及び検査法の開発を行うための機関（農林水産省所管の財団法人）として、昭和40年に設立されました。その後、昭和48年に馬の親子判定及び個体識別のための検査も開始し、以来、競走馬の薬物検査と個体識別検査及びこれに係る研究を行う国内で唯一の機関として業務を行っています。平成23年には内閣府による公益認定を受けて、財団法人から公益財団法人に移行しています。

本稿では、JABLAS会員の皆さんにはあまり馴染みがないと思われる競走馬のドーピング検査（薬物検査）と、弊所におけるISO/IEC 17025認定取得の経緯等について簡単に紹介したいと思います。

2．競馬における薬物規制

弊所の薬物検査についてお話しする前に、競走馬の薬物規制の概要についてご紹介した

と思います。国際的な競馬主催者の集まりである、国際競馬統括機関連盟(International Federation of Horseracing Authorities , IFHA) という団体があります。競馬に係る国際的な約束事は、この団体が定める「生産、競馬及び賭事に関する国際協約」(“ International Agreement on Breeding, Racing and Wagering ”) に集約されていますが、この中の第 6 条「禁止薬物」(“ Prohibited Substances ”) に競走馬の薬物規制に関連するルールが規定されています。これが国際的ルールということになりますが、実際には、この協約を基本としながら、国ごとに禁止薬物の範囲や閾値の設定などについて、独自の考え方に基づいた規制が行われています。中でも日本の競馬では、世界的に見ても特殊な、「競馬法」という法律に基づいた薬物規制が行われています。この法律の第 31 条には、レースで出走する馬に対して「その馬の競走能力を一時的に高め又は減ずる薬品又は薬剤を使用」することを禁ずる、といった内容の条文があり、これに違反した場合は「3 年以下の懲役または 300 万円以下の罰金」に処されることとなります。この様に、刑事罰につながる日本の競走馬の薬物検査は、とりわけ裁判化学的な色合いを持っていると言えます。

日本の競馬における禁止薬物陽性事例は、平均して年間 3 件程度、割合としては 10,000 件当たり 0.7 件ほどで、国際的には少ない部類に入るようです。ちなみに、勝馬投票券(馬券)と禁止薬物陽性との関係について紹介すると、あるレースの入賞馬が検査の結果、禁止薬物陽性となったとしても、払い戻しに係る着順はレース直後に確定して変更されませんので、当たり馬券が無効になることはありません。とは言え、もちろん正式な競走成績は事後修正されますし、前述の刑事罰とは別に、競走馬の管理者である調教師には主催者による行政処分が課せられることとなります。

3 . 競走馬の薬物検査

競走馬の薬物検査では、競馬主催者からの依頼により、レース後の馬から採取された尿あるいは血液について、禁止薬物の存在の有無を検査します。検査の対象となる馬は、各レースの上位入賞馬および裁決委員が指定した馬となっています。検査材料の採取は競馬主催者によって行われ、採取された検体は 2 分割 (A 検体および B 検体) された上で、弊所に送付されてきます。

検査は、スクリーニング検査と確認検査から成っています。まず、A 検体を用いてスクリーニング検査を行い、禁止薬物が含まれている可能性のある検体については、薬物を同定するための確認検査が行われます。分析方法としては、スクリーニング検査および確認検査ともにガスクロマトグラフィー質量分析法や液体クロマトグラフィータンデム質量分析法などが主体となっています。A 検体が禁止薬物陽性になると、主催者の依頼により B 検体を用いた再検査を行います。この再検査は、検査依頼者が指定する第三者の専門家(大学教員)の立会のもとで実施され、この検査で同じ結果が得られて初めて禁止薬物陽性が確定します。

検査における各薬物の検出レベルは検査依頼者(競馬主催者)の指示に基づいて設定されますが、その基準としては、International Laboratory Accreditation Cooperation (ILAC) が発行する “ Accreditation Requirements and Operating Criteria for Horseracing Laboratories ” (ILAC-G7:06/2009) の中の競走馬の薬物検査機関の能力に関

する指針である“ Performance Specification of the Laboratories for Doping Control Required by the International Federation of Horseracing Authorities ”などが代表的なものとして挙げられます。

4 . ISO/IEC 17025 認定取得

弊所の ISO/IEC 17025 認定取得は、主として検査依頼者である競馬主催者の要請が契機となっています。前述の IFHA の「生産、競馬及び賭事に関する国際協約」の第 6 条の中に、「各国の競馬主催者団体は、競走馬の薬物検査を ISO/IEC 17025 認定取得した検査機関に実施させること」といった内容の条項があります。この制定を受けて、弊所を含む世界中の競走馬薬物検査機関において、ISO/IEC 17025 認定取得に向けた動きが本格化しました。弊所は数年の準備期間の後、2004 年に認定取得しています。

弊所は、認定範囲の大部分において「試験の種類による認定」を受けていますが、弊所のような、いわゆる開発型の検査機関にとって、「試験の種類による認定」を受けることができたことは非常に大きなメリットとなっています。日本の競走馬の薬物検査も、人のスポーツの薬物検査と同様に、禁止薬物リストが常に更新され、新たな検査対象薬物が追加されていきます。通常の「試験方法による認定」の場合は、検査対象を追加する毎に認定範囲の拡大申請が必要となりますが、試験の種類による認定では、資格審査を受けた「試験の種類管理職員」が試験の妥当性を確認することにより、拡大申請なしに検査対象薬物の範囲を拡大することが、多くの場合において可能となっています。これにより、禁止薬物が追加された時に、速やかに検査が実施可能となります。

5 . おわりに

昨年の福島第一原子力発電所の事故以来、放射線量の測定値が広く社会の注目を集めています。過去に、これほどまで「測定値」というものに真剣に注意が払われたことは無かったのではないのでしょうか。それと同時に、検査の精度や信頼性ということにも関心が向けられるようになっていきます。検査機関の信頼性の証である ISO/IEC 17025 認定は、その社会的な認知度の低さから、社会の中で正当な評価を得ていないのではないかと、という意見を耳にすることがあります。そうであるならば、社会が検査の信頼性に関心を向けている今こそ、ISO/IEC 17025 認定の価値を広く社会に認知してもらうための、絶好の機会ではないかと思えます。JABLAS には、是非ともこうした活動において主導的な役割を果たして頂けることを期待しています。

以上



公益財団法人 競走馬理化学研究所 外観



同 試験室内部

JABLAS 校正専門部会の発足にあたって

2012 年 4 月 1 日
校正専門部会
幹事 大黒 常雄

東日本大震災より早 1 年が過ぎました。
会員の皆様には日々ご多忙な事と推察いたします。

さて、JAB 試験所協議会が 2009 年 4 月に発足して 3 年、その間、化学専門部会、機械・物理専門部会、臨床検査専門部会が立ち上げられ、会員相互のコミュニケーションと技術交流会等が図られ活発に活動されています。

校正専門部会の発足が少々遅れる中、部会発足の為の事前準備懇談会を去る 1 月 31 日 JAB 会議室にて、JAB 小島勇夫氏（校正担当プログラムマネジャー）を招いて総勢 21 名にて開催いたしました。

各自の自己紹介の後、ユウアイ電子（株）伊藤 明 社長に校正専門部会会長としてご就任いただき、今後の活動方針について、具体的な提案等忌憚のない意見交換が行われました。

申し遅れましたが、私は JAB 認定センタ - 試験所審査員（質量校正技術審査員）としてお世話になっており、この度幹事役を仰せつかりました。微力ではありますが、皆様のお役にたてればと思う次第です。

JAB 校正事業認定の取得事業所は現在あまり多くはありませんが、各社の連帯と能力の研鑽をめざし、顧客の満足度を高めることにより、各位の向上に寄与していきたいと思えます。

具体的には、1 月 31 日の懇談会討議内容及び 6 月 12 日開催予定の第 1 回校正専門部会での意見交換を介して意志の通じ合う運営を心掛けたいと考えます。

簡単ではございますが、JABLAS 会員の増強と各認定事業所様の益々の発展を願いご挨拶とさせていただきます。

以上

活動報告

1. 校正専門部会 懇談会

前述のとおり、2012 年 1 月 31 日に JAB 会議室にて 21 名の参加を得て、校正専門部会 懇談会を開催しました。

来年度正式発足の前に、校正分野の会員他の皆様から要望やご意見を伺うことができ、今後の活動の方向付に有意義な会でした。校正分野は種類も多く、分野を乗り越えて、JABLAS の特徴を生かしてどのように活動していくかを検討していきたいと考えます。

2. 「第十回ラボラトリーのための内部監査員養成」セミナー

2012年2月3日、4日の両日にわたり、JAB 会議室で27名の参加を得て開催されました。講師はJABLAS 幹事の山中哲也でした。

3. 化学専門部会

2012年2月22日にJAB 会議室で16名の参加を得て開催され、2011年度活動結果の報告と2012年度活動計画について議論がなされました。詳細は、総会にてご報告いたします。

4. 「微生物試験 バリデーションと不確かさの求め方」セミナー

2012年2月24日にJAB 会議室で16名の参加を得て開催されました。内容は「微生物試験の国際化に向けた最近の動向」、「妥当性確認(Validation)と検証(Verification)」及び「微生物試験結果の不確かさの推定」で、関係者の関心の高いテーマでした。講師は前回と同じJABの森 曜子様でした。

5. 化学専門部会 第三回試験所見学会

2012年3月14日に財団法人 日本冷凍食品検査協会 横浜試験センター様のご協力を得て開催されました。当初は、定員を超える希望者がありましたが、当日はご都合が悪くなった方があり、実参加数は22名(内非会員4名)でした。初めに試験所様より試験所概要及び「登録検査機関としての品質保証について」説明をいただき、その後2班に分かれて現場見学を行いました。見学後、名刺交換及び試験所様からの「食品の放射能試験について」と題する講演に引き続き意見交換会が活発に行われました。



財団法人 日本冷凍食品検査協会 横浜試験センター様 見学会 参加者

6 . JABLAS 審査員クラブ

2012 年 3 月 17 日に JAB 会議室で 13 名の参加を得て開催されました。
名称は JABLAS 審査員クラブ、参加資格は会員で、JAB 審査員（候補者・OB を含む）とし、主査として田中 誠之助 様に就任頂きました。
今後どのように活動していくか、活発な意見交換が行われた結果、公開セミナー、各種アドバイス活動、出張セミナー等、貴重なアイデアが出されました。
また、関西地区での開催も検討することになりました。

7 . 「化学試験・臨床検査の不確かさの求め方とその活用」セミナー

2012 年 3 月 22 日に JAB 会議室で 29 名の参加を得て盛況裡に開催されました。
内容は下記の通りでした。

「認定審査にみられる化学試験における不確かさ、妥当性の確認及び測定のトレーサビリティの注意点、“陥りやすい注意点”等」

（講師：JAB 認定審査員 望月 康平 様）

「化学試験・臨床検査における Top Down 方式による不確かさの求め方の展開」

（講師：JABLAS 代表幹事 青柳 邁）

「ISO 5725 (JIS Z 8402) に基づく不確かさの概念、技能試験及び試験所間比較試験による適用例」

（講師：JAB 技能試験コーディネーター 柿田 和俊 様）

「化学試験における不確かさの活用例」

（講師：日本環境株式会社 検査部 検査センター
検査センター長 行谷 義治 様）

今後の予定

1 . JABLAS 第 3 回勉強会

開催日 2012 年 4 月 17 日（火）

開催場所 JAB 会議室

テーマ 「マーケティングから試験所経営を考える（議論）」

2 . 2011 年度（第三期）JABLAS 総会

開催日 2012 年 5 月 16 日（水）

開催場所 JAB 会議室

3 . 「第十一回ラボラトリーのための内部監査員養成」セミナー

開催日 2012 年 6 月 7 日（木）、8 日（金）

開催場所 JAB 会議室

本講座は、毎回好評で多数の参加者があります。今年度は今回を含め 4 回開催（内 大阪開催 1 回含む）する予定ですが、参加ご希望の方はお早めに申込みいただくようお勧めします。また、本年度から新たに検査機関向け内部監査員養成セミナーを開催する予定です。詳細は JABLAS ウェブサイトを参照願います。

4 . 校正専門部会

- 開催日 2012年6月12日(火)
開催場所 JAB 会議室
5. 「不確かさにおける統計的手法について 基礎から応用まで」セミナー
開催日 2012年7月3日(火)
開催場所 大阪国際会議場 グランキューブ大阪
6. 機械・物理専門部会
開催日 2012年7月17日(火)
開催場所 JAB 会議室
7. 「不確かさにおける統計的手法について 基礎から応用まで」セミナー
開催日 2012年8月1日(水)
開催場所 東京都品川区立総合区民会館 きゅりあん
8. 「トップダウン方式(分散分析)を利用した不確かさ求め方」セミナー
開催日 2012年8月7日(火)
開催場所 JAB 会議室
9. 第一回宮川公開塾(*)
開催日 2012年5月24日(木)
開催場所 JAB 会議室
テーマ 「わくわくするようなビジョン創りとリーダーシップ」
10. 第二回宮川公開塾(*)
開催日 2012年6月14日(木)
開催場所 JAB 会議室
テーマ 「戦略とマーケティングの原理原則と実践入門」
11. 第三回宮川公開塾(*)
開催日 2012年7月10日(火)
開催場所 JAB 会議室
テーマ 「良く分かる財務・損益管理」
12. 第四回宮川公開塾(*)
開催日 2012年8月22日(水)
開催場所 JAB 会議室
テーマ 「PDCA やモチベーションなど組織マネジメント」
13. 第五回宮川公開塾(*)
開催日 2012年9月11日(火)
開催場所 JAB 会議室
テーマ 「発表会・ディスカッション」
- (注*) 既に数機関より問い合わせ・申し込みがあります。

事務局だより

1. 新事務局員の紹介

本年1月から、大黒 常雄（校正専門部会 幹事）同じく4月から苅谷 文雄（臨床専門部会 幹事）が就任しました。より充実した専門部会活動を行うべく努力いたしますので、宜しくお願い申し上げます。

2. 講師派遣セミナーのご案内

機関/企業(以下 依頼者)へ講師を派遣するいわゆる出張セミナーについては、以前から実施していますが、ご要望にお応えして、今後積極的に展開することとします。

1) テーマ

現段階では下記の2テーマが即受付可能です。基本的には、既の実施した公開セミナーと同じものとしませんが、ニーズにより新規テーマでも結構です。

- ・ 内部監査員養成セミナー
(対象規格 ISO/IEC 17025 ISO 15189 ISO/IEC 17020)
- ・ 経営者向けの試験所認定とマネジメントレビューセミナー

2) メリット

自社で多数の受講が可能となるので、時間の有効活用が図られ、又一人当たりの単価が安くなる
 要望に合わせ、内容を変化させることができる
 他を気にせずに質問などができる(秘密事項 他)
 固有の問題点を深掘りすることができる
 講師に事前に試験所を見てもらうことができる
 独自の年間計画を作ることも可能
 希望のテーマで開催を検討できる

3) 実施費用(消費税込)

会 員 ¥210,000/1日 ¥367,500/2日
 非会員 ¥315,000/1日 ¥551,250/2日

(注)講師の交通費・宿泊費・食事代また資料費(例:書籍など)などがかかる場合は別途請求させていただきます。

なお、ご予算については事務局までご相談下さい。

以上

編集兼発行人 井須 雄一郎 発行所 J A B 試験所協議会

住所: 〒141-0022 東京都品川区東五反田1丁目22 1 五反田 AN ビル 3F 公益財団法人日本適合性認定協会内

電話: 03 5798 8820 FAX: 03 5798 8821 E-MAIL: info@jablas.jp URL: http://jablas.jp

無断で複製、転載等を禁じます。